

---

# 一人なのに

戸井田 康

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

一人なのに

### 【Zコード】

N1022F

### 【作者名】

戸井田 康

### 【あらすじ】

一人きりの部屋で、起つる不思議な出来事

私のマンションは気密性がよく、  
冬など、よほどのことがないと  
暖房が要らないくらいの建物でした。

僕は一人暮らしで

酒も、あまり嗜わなく、女遊びも得意ではないので  
夜は一人で、部屋の中でコンピュータをいじっているのが多く  
その日も、僕は

一人、夜中にＰＣをまわし、

インターネットに勤しんでいなした。

翌日は仕事も休みということもあり

夜遅くまで、僕は、コンピュータの前に座っていました。

夜は更にふけていきます。

僕は「コーヒーをたてます。

そう、コーヒーはたてるものなのです。

コーヒーの香りが、僕の狭いいっぱいに部屋に広がります。

僕は甘いものは嫌いです。

でも、

僕はコーヒーに砂糖とミルクをたっぷりと入れます。

理由は簡単です。

昔好きだったひとが入れてくれたコーヒーに  
砂糖とミルクがたっぷり入っていたからです。

だから、僕は嫌いな甘ったるいコーヒーを啜ります。  
甘つたるくまずいコーヒーを飲み終わると  
曜日が変わる時間になります。

その時です。

僕の部屋のどこからか

臭つてくるものがありました。

僕は辺りを見回します。

部屋の中は変わったところは、どこにもありません。

僕は、もう一度部屋の中を見回します。

鼻を動かして臭いを嗅ぎます。

やはり、臭つてきます。

それは、紛れもなく  
おならの臭いでいた。

僕一人しかいない部屋で、  
恰も、僕のすぐとなりでかましたような  
強いにおいのおならでした。

僕はもう一度、部屋の中を点検しました。  
台所の排水溝から、下水の匂いが上がってきたのではないかとも  
思いましたが  
そうではありませんでした。

そのときは一人きりということもあり  
深く考えないことにしました。

翌日、そのことについて考えて見ると

もしかしたら、僕は、

幽霊のおならを嗅いだという、貴重な体験をしたのではないかと

悦に入つております。

ちなみに。それ以降は嗅いでいません。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1022f/>

---

一人なのに

2010年11月12日16時27分発行